

日本を変える、
世界を動かす！

社会知性の チカラ

The Potentiality for "Socio-Intelligence"

地域と人をつなぐ心の架け橋

国内外で育まれてきた 支え合う力と心

国内外で活躍する専修大学の卒業生たち。その発想力や行動力は、既存の小さな枠を飛び越える。自らが縦横無尽に動き、考えることで実現可能とする。そのバイタリティが、周囲の人を巻き込み、そして大きな力となっていくのだ。

人との交流や共同体のなかで 個を磨くことで自らの生き方を見つける

野球と勉強と映画……。専大では、この三つが生活の中心でした。軽い気持ちで入った準硬式野球部でしたが、練習は厳しく、体育会そのもの。今でも覚えているのは、うさぎ跳び四キロと、ダッシュ一四キロという特訓。これは本当にきつかった。だから、授業はまじめに出席していましたよ。なにしろ、そのあいだは部活を休めるわけですから（笑）。

映画好きは、両親の影響です。部活が休みの日は、名画座などに通い、年間一〇〇本くらいは見ていましたね。大学三年のとき、両親が応募した映画のオーディションに合格。映画「ドカ

ベン」が、僕の役者人生のスタートとなります。そういう意味でも、野球と映画など、専大でのつらくも楽しい経験は、僕の人生のターニングポイントとなったわけです。

専大準硬式野球部の仲間が農業のきっかけに

現在、俳優としての活動のほかに、農業コンサルタントとして、講演や体験農業を企画したり、青空市場を開催しています。じつは、そのきっかけをつくってくれたのが、準硬式野球部時代の友人です。映画祭で、秋田県の十文字町（現・横手市）を訪れた際、役場に勤める友人に

米づくりを体験させてもらいました。そこで出会った、地元の農家の方々の仕事や暮らしぶりに魅せられたのが、始まりです。太陽の下で泥にまみれて、おいしい米や野菜を自らの手で作る。農作業の魅力を今の子どもたちに体験させたいと強く感じたのです。同様に、千葉県の成田市にもJAに勤める準硬式野球部の友人がおり、体験農業を主催して一緒に活動しています。

ほかに、生産者と消費者の交流の場を設けるために青空市場を開催しています。今のところ、東京と千葉が中心ですが、とても多くの人に集まっていたいています。人と人が直接会って、交流を深めることで、新しい発想やさまざまな可能性が生まれるもの。今後も発展さ

せていきたいですね。

個の時代といわれていますが、あくまでも集団や共同体がベース。個性重視の風潮により、身勝手な振る舞いが横行し、人間関係が希薄になってしまっているのが現代ではないでしょうか。集団があつてこそその個であり、集団のなかで自分のカラーをどう出すかが、自分の生き方を探すことにもつながります。

学生の皆さんも、積極的に多くの人と交流する機会を持ち、集団のなかで「自分」にできることは何か」を見つけてほしいですね。



俳優・農業コンサルタント

永島敏行

（1978年文学部卒業）
千葉県出身。専大では準硬式野球部に所属。在学中に俳優デビュー。2作目の「サード」では、日本アカデミー賞の優秀男優賞を獲得。俳優として活躍する傍らで、30代から農業に興味を持ち、秋田県の十文字町、千葉県の成田市で農業体験を主催。05年に有限会社青空市場を設立し、定期的に市場を開催。生産者と消費者の交流を積極的に図る。

チャレンジ精神を 忘れず 青春を海外で燃やせ

Bangladesh国副総理大臣付WHO上席アドバイザー 蒲 章則

（1976年法学部卒業）
東京都出身。会計事務所やODA外郭団体、フランス経済研究所などを経て、91年よりWHO（世界保健機関）職員となる。南東アジア地域事務局官房室長を務めた後、現在Bangladesh国副総理大臣付WHO上席アドバイザー。



国

際法の池田文雄先生が、講義のたびに力説されていた「国際公務員となって、世界を舞台に活躍せよ」との言葉が、その後の私の人生を決定づけていました。

その夢に向かって、専大を卒業後も五つの大学に在籍し、国際法、国際保健学などを学び、医学博士の学位を取得しました。仕事も、日本国際医療団などで国際医療協力の経験を積み、三七歳のときに念願がなつて、WHOへの採用が決まりました。南東アジア地域事務局官房室長を経て、現在、Bangladesh

ユ政府の副総理大臣付WHO上席アドバイザーを務めています。Bangladeshの人々は、貧しくとも明るく、たくましい人

たちばかりです。それに比べて、日本の若者は覇気がないように感じますね。専大生の諸君も、日本だけにとどまらず、たくさんの国で活躍してほしい。チャレンジ精神を忘れず、「青春を海外で燃やせ。そして野武士たれ！」と言いたいですね。私も、家族のため、そして貧しい人々のために、今後も懸命かつ楽しんで仕事を続けていくつもりです。

専大に通うことで 深まった 人とのつながり

専修大学大学院在籍(文学研究科 日本語日本文学専攻) 戸津亜里紗

（2009年ネットワーク情報学部卒業）
東京都出身。脊髄性筋萎縮症を抱え車いすでの生活を送る。専大ではコンテンツデザインなどを習得。小学生時代からインドネシアに車いすを送るボランティアを続け、08年「まちかどのフィナンソロピスト賞」（青少年部門賞）受賞。



専

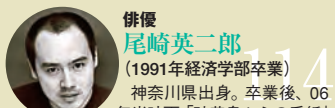
大を選んだ理由は、一つは都内近郊の大学では最もバリアフリーの環境が整っていたこと。もう一つは、ネットワーク情報学部があったことです。私は、生まれつき全身の筋力が弱く、重いものを持ったり、積極的に体を動かかせません。インターネットならパソコン一台で、自分の世界を広げられると考えたためです。

教養科目ではインドネシア語を学びました。私は小学生のときからインドネシアの障がい児学校に車いすを送るボランティア活動を続けています。障がい

を持つインドネシアの子どもたちも車いすがあれば、もっと外の世界に触れられると、始めた活動です。そんな人たちの交流を深めるためにも、会話を身につけたかったです。

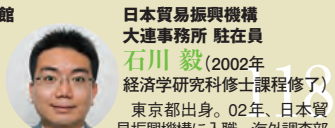
ほかにも、専大のブランドイングプロジェクトに参加したりするなど、在学中は数え切れないほど、楽しい思い出がいっぱいあります。今は大学院に通い、文学を専攻しています。将来的には、私の病気のことやボランティア活動などについて一冊にまとめ、多くの人に知ってほしいと考えています。

チャレンジする 心を育む —新境地へ飛び込む



俳優 尾崎英二郎
（1991年経済学部卒業）
神奈川県出身。卒業後、06年米映画「硫黄島からの手紙」、07年米ドラマ「HEROES」に出演。09年「THE 8TH SAMURAI」でロサンゼルスでロサンゼルス短編映画祭において主演男優賞を受賞。

交換留学プログラムで渡米した際、「君が本気なら、きっとやれるよ！」と自分の夢を真剣に後押ししてくれた米国の友人たちの言葉が、演技の道に挑むきっかけになりました。今の専大生たちも、自分の可能性や限界のラインを勝手に引かず、大きな夢に挑戦してほしいと思います。



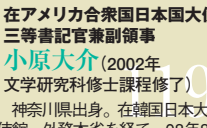
日本貿易振興機構 大連事務所 駐在員 石川 毅
（2002年経済学研究科修士課程修了）
東京都出身。02年、日本貿易振興機構に入職。海外調査部中国北アジア課、総務部総務課に配属。06年より中国に赴任。地域間の産業経済交流・日中間の省エネ・環境ビジネスを担当。

吉家清次ゼミでは、経済学を通して世の中を分析する楽しみを覚え、勉強を重ね、大学院に飛び級で進学することでもできました。経済の事象を分析してレポートを書くスキルや、授業で得た知識、専大卒業生や先生方とのネットワークは、今でも貴重な人脈となっています。



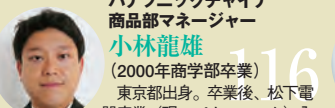
渋谷区議会議員／NPO「green bird」代表 長谷部 健
（1996年商学部卒業）
東京都出身。オーストラリアンフットボール愛好会所属。日本代表として海外遠征を経験。卒業後、博報堂に入社。03年、NPO法人「green bird」を設立。同年、渋谷区議会議員選挙に当選。

在学中は海外遠征費を確保するため、企業スポンサーを募るなど、意欲的に活動。「動きながら物事を考え、周りの人を巻き込んでかたちにすることの大切さ」を学びました。この経験は、green birdの活動理念である「街だけでなく、人の心も美しくする」ことにもつながっています。



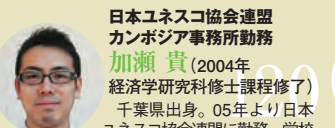
在アメリカ合衆国日本国大使館 三等書記官兼副領事 小原 大介
（2002年文学研究科修士課程修了）
神奈川県出身。在韓国日本大使館、外務本省を経て、08年8月より現職。来日する外国人への査証発給、在留邦人への各種サービス（旅券、在外選挙、戸籍・国籍事務など）が主な仕事。

大学院在学中に長期交換留学プログラムを利用し、韓国の檀國大学大学院で10カ月間、日韓関係史を研究しました。語学だけでなく、将来の日韓関係のためになすべきことなど、多くのことを学び、そして考えました。このときの経験は、今の仕事にも大いに生かされています。



パナソニックチャイナ 商品部マネージャー 小林 龍雄
（2000年商学部卒業）
東京都出身。卒業後、松下電器産業（現・パナソニック）入社。国内家電営業を経て、04年にフリーエージェント制度で海外部門へ異動。現在は北京支社の放送機器を扱う商品部で活躍中。

「日本代表を目指さないか」、その言葉に引かれ、新興スポーツであったラクロスに打ち込み、全日本選手権を目指して練習を重ねた学生時代でした。挑戦のフィールドを海外に変えても「No pain, No gain」の精神で、懸命に新しい分野に取り組み、成長を続けていきたいですね。



日本ユネスコ協会連盟 カンボジア事務所勤務 加瀬 貴
（2004年経済学研究科修士課程修了）
千葉県出身。05年より日本ユネスコ協会連盟に勤務。学校に通えない子どもたちや成人の非識字者に教育機会を提供する「ユネスコ世界寺子屋運動」をカンボジアで実施している。

室井義雄ゼミでは、発展途上国の貧困問題の解決法や貧困の本質とは何かを考えさせられました。また、「多角的な視点で物事を見る」ことを、室井先生から教わりました。現地の人たちを深く理解し、共に歩むためにも、専大で学んだ「教え」は大切にしていきたいと思っています。